

広瀬川の眺望価値の金銭的評価

宮城県仙台二華高校	加福 悠太
宮城県仙台二華高校	桑原 優菜
宮城県仙台二華高校	馬場 裕樹
東北大学大学院情報科学研究科	福本 潤也

1. 目的

広瀬川は仙台市街を流れる都市河川でありながら、流域には自然が多く残る。市街地と一体化した河川風景や自然と一体化した河川風景が見られるなど、どの地点から川を見るかによって景観が全く異なるという特徴がある。本研究では広瀬川を調査対象にすることにより、周辺風景の違いが人々の河川景観の評価に及ぼす影響を検討する。具体的には、河川景観の評価体系に関する仮説を提示し、アンケート調査の結果を用いて仮説の妥当性を検証する。

2. 分析手順

(1) 概要

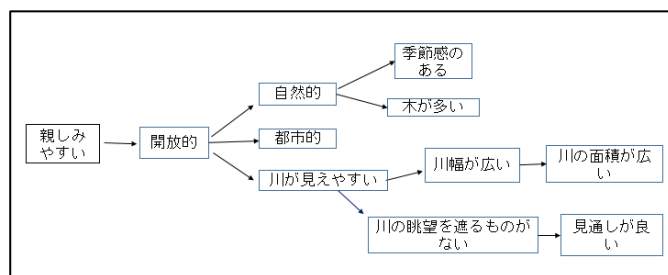
上記の目的を達成するため、以下の手順で分析を行う：1) 河川景観の画像収集、2) 評価体系の仮説構築、3) アンケート調査、4) 評価体系の仮説検証。

(2) 河川景観の画像収集

住宅情報サイトや地図を用いて、広瀬川の眺望が確認できそうな物件(新築中古は問わない)を探し出す。リストアップした物件からどのような眺望が見えるのか、Google Earth を用いて確認し、川の見やすい物件を選ぶ。選んだ物件から観測された河川の眺望をスクリーンショットする。また、高層マンションなどについては、階により川の見え方が大きく異なると考えられるため、緯度や経度を変えず高度のみを変化させた撮影も行った。

(3) 評価体系の仮説構築

執筆者らは(2)で収集した各画像について3段階で評価を行い、その際の判断基準を既存研究を参考にしながら整理することで評価体系の仮説を構築した。仮説は図1に示す通りである。



(3) アンケート調査

(2)で提示した仮説の妥当性を検証するため、(1)で収集した画像を被験者に提示して、1) 河川景観の主観的評価と、2) 河川景観の形成要因の印象を測定する。調査対象とするのは高校生約200名である。

(4) 評価体系の仮説検証

(3)のアンケートで得られた主観的評価と印象を点数化して、主観的評価を被説明変数とする回帰分析を行い、(2)で構築した評価体系の仮説を検証する。

3. まとめ

現在、分析手順(4)と(5)の作業を進めている。学会発表時までには作業を終えて結果を口頭で発表いたします。

謝辞

本研究は本校指定のSGHプログラムの支援により実施されましたここに感謝の意を表します。

参考文献

- 1) 環境経済評価の実務；大野栄治, 到草書房 2009
- 2) 景観形成の経済的価値分析に関する検討報告書；国土交通省都市・地域整備局都市計画課 2007
- 3) 国内外河川景観の評価特性の比較分析；西名大作, 村川三郎